

大阪教育大学附属平野中学校合格

K. N. くん
(所属 天王寺教室)

大阪教育大学附属平野中学校合格

テーマ 受験勉強における後悔

「失敗から学んだこと」

ぼくは、Hクラスながら、自分の偏差値から5～7ぐらい上の志望校を目指していた。Sクラス、Vクラスの人が前受けて受験することの多い中学校だった。それでぼくは、まずSクラスに上がらなければと思い、得意な算数、理科は復習テストで上位に入るように、Hクラスの宿題範囲は、完ぺきに、何度も解いた。しかし、Sレベルの志望校を受験するのなら、復習テストのためではなく、Sレベルの宿題範囲までやるべきだったと思う。結局、秋以降、過去問を解きはじめて、その問題の難しさに気づき、あわててSクラスの範囲まで問題をやるようになった。

ぼくは、6年から浜学園に入ったので、受験勉強のサイクルに慣れるのも遅かったし、未習の範囲を勉強するのも大変だったので、元々、余裕が全くなかった。第二志望校のことまで対策する余裕もなく、とにかく第一志望校の試験日までは、ひたすらその中学校に対する勉強に専念した。しかし、5点足らずに不合格となってしまった。得意なはずの理科で点数がとれず、苦手な国語をカバーできなかったのだ。チャレンジ校の受験には、苦手科目があると命取りになると実感した。

不合格の後、出願が間に合う私学を受けるように言われたが、行きたい中学校がなかった。それから、大教大附属平野中の対策を必死でした。しかし、解答の仕方が私学とは違うので、簡単な問題だと思っても模範解答のような答えが書けない。みんなが統一日の試験を受けているだろうと思いながらも、ひたすら平野の過去問を解き続けた。ぼくは、面接も心配だった。でも、お世話係さんが、「とにかくハキハキと言うことが大切」と教えて下さった。集団面接なので、質問に対して他の受験生の返答もきくことになるが、お世話係さんのおかげで他人の答えを気にせずに、自分の意見が言えた。

ぼくは失敗から、受験校はなるべく早く決定し、そのレベルの問題を早い時期から解くことや、チャレンジ校なら、なおさら苦手教科を克服しておくことが大切だと思った。また、完ぺきになるまで過去問を解くこと。1年という期間は短すぎたが、支えて下さった先生方には感謝している。